

「障害者 ポスト」が必要な時代は来ないだろうなあ…

今月始めの「食事与えられずに知的障害の長男死亡 母親を逮捕 熊本」の報道（2 P に貼付：参照）を目にした方も多いと思う。

あるブログの次のような記載を目にした。

「生活支援ワーカーとしてはつらい事件である。

親を責めるより、福祉はどうだったのだろうか？ワーカー、コーディネーター等はどう動いていたのだろうか？自分の地域でもいないだろうか？ふと考える。

赤ちゃんポストではないが、障害者ポストが必要だと言われたいよう頑張りたい。」

「赤ちゃんポスト」に関しては既に自分なりのコメント（「雑学BN」の「マスコミ等コメント関係（Ⅲ）P、2006.03.22.「『赤ちゃん ポスト』設置問題を、どうお考えですか？」：参照）を当HPに掲載したが、正直、「障害者 ポスト」というところまで推測は及ばなかった。

「赤ちゃん ポスト」の記事の中で「自分にとって不都合で排除したいもの、まして人の命、存在に関係することまで、公けに受け入れるものがあるから排除できるという風潮が助長されないかと、危惧を抱き続けている。」と記したが、生活支援ワーカーも同様な危惧を感じたからこそ、「障害者ポスト」を連想したのだろうか……。まさか、「認知症・高齢者 ポスト」まで必要といわれる時代はこないだろうか……。

確かに、熊本のような事件の予防策や解決策は一筋縄ではいかないことは重々承知しているが、自活能力がなく、自分で困難を切り開く力がない障害者が、家族にすら見捨てられ在宅に置き去りにされた場合、また、介護をしてくれていた家族が急死した場合など、餓死しなくてもよい支援策は、本当にあり得ないのだろうか。

今回の事件報道に接すると、「障害者自立支援法」と銘打つなら、「自立支援」をいう以前に、家族支援、家族指導を含めて、障害者の「生命・存在」を保障する根源の策からこそ、社会システムを見直し再構築すべきでないかと、改めて考えさせられた。

今日は全国的に、知事、県議、市議の選挙投票日。

候補者は異口同音に福祉関係をマニフェストに掲げているが、根源的な政策に具体的に触れたものでないのは、何とも寂しい……。

## 食事でえられずに知的障害の長男死亡 母親を逮捕 熊本

2007年04月05日19時18分

熊本県警水俣署は5日、同県水俣市古城1丁目の旅館従業員、川崎小波容疑者(49)を保護責任者遺棄容疑で逮捕した。知的障害がある長男宏一郎さん(19)に約1カ月間食事を与えなかったとし、宏一郎さんは4日に死亡が確認された。死因は衰弱に伴う呼吸器感染症で、3月27日ごろ死亡したとみられる。

調べでは、川崎容疑者は3月上旬から今月4日にかけて、自活能力がなく、食事を与えなければ餓死する恐れがあることを知りながら、食事を与えず、自宅に放置した疑い。大筋で容疑を認めているという。

民生委員らによると、川崎容疑者は温泉旅館に住み込みで働き、宏一郎さんは自宅に1人で住んでいた。ほとんど外出せず、川崎容疑者が2、3日に一度、弁当やカップめんなどを運んでいたという。4日に近くの住民から「息子が死んでいるようだ」と110番通報があり、駆けつけた署員が遺体を見つけた。

川崎容疑者は「借金があり、知的障害の子どもが重荷になった。3月上旬からは食べ物を持って行ってない」と話しているという。司法解剖の結果、身長172センチに対し、体重は28.4キロだったという。同署は6日、保護責任者遺棄致死の容疑に切り替え、同容疑者を送検する予定。

民生委員に1年半ほど前、「長男が栄養失調のようだ」という情報が寄せられ、川崎容疑者に改善を求めているという。